



日本時間生物学会

Japanese Society for Chronobiology

日本時間生物学会ホームページのご案内

大島五紀

日本時間生物学会ホームページ運営委員
塩野義製薬(株) 実験動物研究センター

E-mail: itsuki.oshima@shionogi.co.jp

この記事をお読みになられている皆さんは、本学会のホームページがインターネット上で公開されていることを御存じでしょうか？もし、インターネットにアクセスできる方でまだご覧になったことが無い方は、是非

<http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jsc/> をご覧になって下さい(この URL はこの学会誌の表紙にも印刷されています)。上のロゴは、本学会ホームページの最初に表示されるページ(トップページ)からコピーしたものです。すでにホームページをご覧になられた方なら「あ、あれね」と思い出していただけたと思います。

本学会のホームページが公開されてから1年余りになります。昨年、第4回学術大会の学会会場でホームページ運営委員会が開催され、その席上で、「学会ホームページを運営して行く上で、このページを閲覧される方々の意見を採り入れ、より有用な情報を提供することが重要で、そのためには、まず学会員の方々に学会ホームページの存在を PR し、見てもらうことが大切であることから、学会誌にホームページを PR する記事を投稿すべきである。」という意見が出されました。そこで、この記事では

学会ホームページが公開されるまでの経緯と、現在のホームページの内容の PR、そして、今後ホームページをより充実させて行くにあたっての学会員の皆様へへのお願いを述べたいと思います。

そもそも、学会ホームページが開設されることになったのは、本学会誌 Vol.2 No.1 の「日本時間生物学会学術大会を終えて」という記事で、第2回学術大会会長を務められた名大の海老原先生が述べられているように、「コンピュータネットワークを利用し、一般学会員からの意見、提案などを吸い上げ、会員相互の意見交換ができる組織作りが時間生物学発展のために必要であろう」という意見が発端でした。海老原先生の意見は、学会運営委員会でも承認され、さっそく海老原先生を委員長とするホームページ運営委員会(表1)が結成され、1996年11月より、具体的なホームページの作製作業に入りました。

表1 ホームページ運営委員会の構成員

[委員長]	海老原史樹文(名大・農学部) (日本時間生物学会運営委員)
[委員]	吉田尚生 (北大大学院・地球環境) 海老澤 尚 (埼玉医大・医学部) 吉村 崇 (名大・農学部) 大島五紀 (塩野義製薬・実験動物) 竹内潤一 (山梨医大・医学部)* 竹内浩昭 (静岡大・理学部)*
[オブザーバー]	中島秀明 (岡山大・理学部) (日本時間生物学会事務局長)

*:1997年よりホームページ運営委員を委嘱

海老原先生が私の大学時代の指導教官であったことから、私がリーダーになってホームページの作製作業に入るようにとの依頼を受けましたが、当時コンピューターに関する知識はある程度有していたものの、ホームページを作製するのは初めての経験で、HTML 文の文法を勉強することから始めて、作製作業を開始しました。幸い、ホームページ運営委員の中に、経験豊富な吉田さん(北大)がおられましたので、ホームページの内容や技術的な問題に関して、ずいぶん助けていただきました。

ホームページの作製にあたり、まず最初に検討したことは、ホームページの内容に関することでした。ホームページ運営委員の皆さんは全員が電子メールを利用できましたので、地理的には離れていたものの、ネットワークを利用して活発な意見交換を行うことができました。運営委員会での結論は、当初の目的を踏まえて、「単なる学会の宣伝ページでは無く、学会員や一般の閲覧者に対して時間生物学に関する有用な情報を提供できるものにしよう」というものでした。そこで、必要と思われる項目をピックアップし、最終的に表2に示す内容を盛り

込んだホームページを作製することになりました。次に問題となったのは、ホームページを公開するサーバーをどこにするかという事です。これについては、(1)大学あるいは大学の研究室のサーバー (2)民間のプロバイダー (3)公的機関のホームページ公開サービスの利用といった案が検討されました。(1)では、サーバーが担当者の身近にあるため、メンテナンスがし易いという利点がある一方で、担当者の移動により利用ができなくなる可能性があります。また、複数の委員によるメンテナンスを行う場合には、アカウントの取得やセキュリティ上の問題が生じます。(2)のケースでは経費の問題と共に、最近経営上の問題から閉鎖されるプロバイダーも見受けられることから、やはりホームページの安定した公開という点で問題があります。(3)のケースでは、経費が安い、あるいは無料である。(1)、(2)と比較して、長期間安定してホームページを公開できるといった利点があります。

当初は、名古屋大学農学部のサーバーを利用させていただく事を検討していましたが、吉田さんが学術情報センターの「WWW 資源提供サービス」の情報を提供して下さり、委員会で検討した結果、学術情報センターにサービスの利用申請を行うことになりました。申請に際しては、委員長の海老原先生にご尽力を頂き、無事に学術情報センターからの WWW 資源提供サービスを受ける許可を得ることができました。こうして、学会のホームページを公開できるサーバーが無料で利用できることになりましたので、97年2月を目処に、ホームページを開設することを目標にして、本格的な作製作業に入りました。これに先立ち、名古屋大学農学部のサーバーを利用させていただき、学会員、学会運営委員、ホームページ運営委員のメーリングリストを作製しました。メーリングリストというのは、そのアドレスへ E-mail を出すことにより、登録者全員に同一内容のメールが送ら

表2 日本時間生物学会ホームページの内容

英語版トップページ(現在はトップページのみ)
日本語版トップページ
時間生物学の内容紹介
時間生物学に関する情報
研究室紹介、研究室ホームページへのリンク
今月のトピック
時間生物学研究の情報コーナー
海外からの情報コーナー
時計遺伝子に関する総説と文献データベース
時間生物学会の案内
学会の歴史と活動内容
学会規約
学会誌の内容紹介
事務局からのお知らせ
学会役員の紹介
学会の入会案内
学会のメーリングリストの紹介とリンク
学術大会に関する情報
第4回学術大会の案内と演題リスト
第1回～第3回学術大会の記録
関連学会の情報とリンク
情報掲示板
学会開催等の案内
求人情報
ホームページ運営委員会のメンバー紹介

れるシステムで、委員会などで、ある提案に対するメンバーの意見を求めたり、多くの人に質問をして広く回答を求めたりする場合に便利なシステムです。勿論ホームページ運営委員会においても毎日のようにメーリングリストを用いた情報交換が行われています。

1997年2月19日に、学術情報センターの Society Home Village からのリンクが設定され、時間生物学会のホームページが公開されました。その後、公開内容の追加やアップデートを行い現在に至っています。中でも「海外からの情報コーナー」で Virginia 大学の山崎さんが毎月送って下さるセミナーレポートは、リズム研究の拠点となっているこの大学でしか聞くことができない、論文になる前の最新情報を日

本に居ながらにして入手できる本ホームページの目玉の一つです。英語の講演を聞いてメモを取り、内容を日本語で要約して毎回送るといふ、大変な作業をボランティアとして快く引き受けて下さった山崎さんには、この場をお借りして心から感謝させていただきます。

学術情報センターから提供していただいたアクセスログを基に、97年2月から12月までの本ホームページへのアクセス数を調べてみますと、開設以来、毎月50-80件程度のアクセスがあることがわかりました(図1)。また、97年12月から98年1月にかけてのアクセスログから、調べてみますと国内からのアクセスが約90%であり、大学や国公立の研究機関(.acドメイン)以外からのアクセスも予想より多いこと

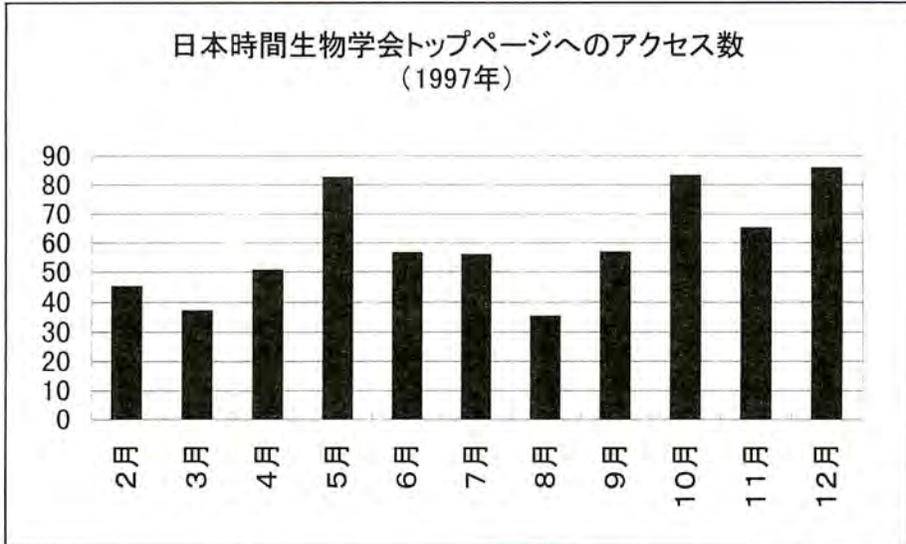


図1 1997年2月～12月までのホームページへの月間アクセス数

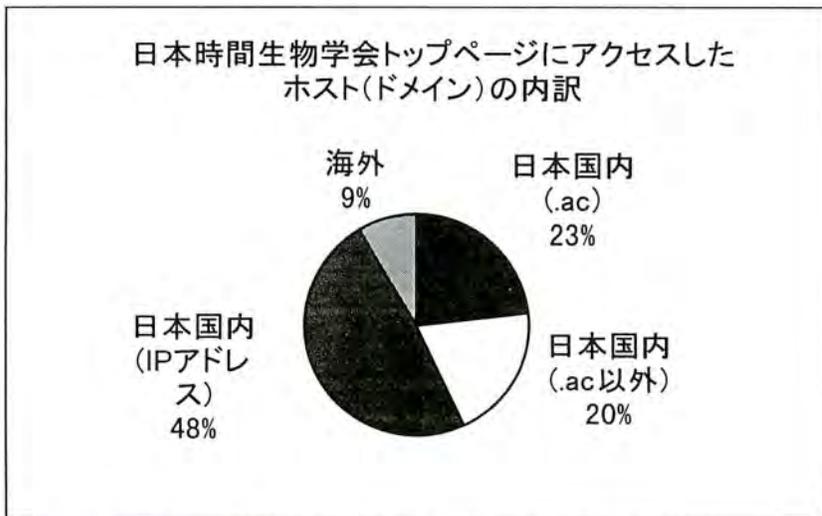


図2 ホームページへアクセスしたホスト(ドメイン)の内訳

がわかりました(図2)。近年、NHK で特集番組が放映されるなど、ようやく時間生物学が社会的にも注目されるようになってきました。

本ホームページが学会員の方々や、研究者の方々のみならず、時間生物学に興味を持つ一般の方々に対しても、有用な情報を提供する場になれば、時間生物学に対する社会の

認知を一層進めることになり、時間生物学の発展にも寄与できるのではないかと思います。今後はさらに、内容の充実を計ると共に、現在トップページのみにも留まっている英語ページを拡張し、広く海外へも情報発信を行う必要があると考えています。また、近年、時間生物学の基礎研究で得られた知見を基に、これらの知

識を臨床医学や労務管理等に応用する試みがなされています。本ホームページで提供している時間生物学に関する情報も多くが基礎研究に関する物であるため、今後は臨床の場で時間生物学の応用に取り組んでおられる先生方にもご協力をいただき、この分野の研究がどの様に私たちの実生活と結びついているのかというような情報も提供していきたいと考

えています。

学会ホームページがこれからも有用な情報交換の場として機能していくためには、会員の皆さんからのご意見やアドバイス、情報の提供などが不可欠です。特に若手の研究者の方々からの斬新なアイデアと情報提供をお待ちしています。どうかご協力をお願いいたします。